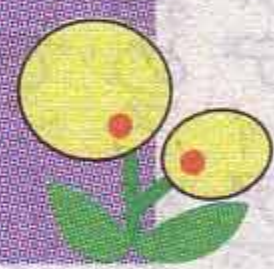


私の

エッセー



「フリースクールりん

スタート当時、不登校

しかし、「りんごの木」

「この木」は、学校外の子どもの居場所として、90年6月に越谷市千間台西の学習塾を借りてスタートし、05年6月に15周年を迎えることが出来ました。「学校ではなく、家でもない居場所が欲しい」という、不登校の子どもたちの声に応えた人々の手により少しずつ歩みを進めてきました。

今年度はNPO法人化5年目という節目に、昨年8月、情報や寄付など皆様からのご協力をいただき念願の広いスペースに移転することができました。まさに「市民力」の結集であった15年の年月であり、支援してくださった皆様に感謝申し上げます。

スタート当時、不登校は本人の「甘え、わがまま」または「病気」であるところとえられていました。現在は、とりあえず「休むこと」は仕方がないというように表面的に理解されているようですが、公教育以外の教育を受けること（フリースクール・フリースペー

しかし、子どもたちは、育った子どもたちは、試行錯誤をしながらも、いわゆる「学校」に行っていた子どもたちと同じように、進学や就職などそれぞれの道を歩んでいます。私たちは、先月12日、「りんごの木15周年記念の会」を開催し、当日は第一部、2部あわせて182人の参加があ

子どもの居場所 15年

越谷 増田 良枝

ますだ よしえ



15周年記念イベントでパフォーマンスを披露するフリースクールの子供たち

筆者プロフィール



越谷市千間台西在住。

子供2人の不登校の体験から現在の活動に入る。平成2年、「フリースペー

り、平成4年、「地域の教育を考える住民の会・越谷らるご」代表。平成12年、フリースクールのためのNPO法人（特定非営利活動法人）を設立。平成13年にはフリースクール全国ネットワーク理事長に。平成17年、越谷らるご理事長に就任。茨城県出身。53歳。

ことを教えてくれました。

また、先月末には、私

てきました。

日本も希望がないわけ

私たちの「りんごの木」が所属しているフリースクール全国ネットワーク主催の韓国スタディツアーに、子ども、理事らが参加してきました。韓国では、「不登校」の子どもを「辞退生」、公教育以外の教育を「代案教育」

ソウル市は、辞退生が存在することを憂慮しながらも責任を認め、代案教育センターを通しフリースクールに財政援助（一律ではない）をしているのでサランパンの子どもたちは無料です。ハジャセンターは、ソウル